

六花の森

庭のアート・ギャラリー

六花の森は、河川、景色、木々や花々を、デザインやイラストの要素として取り入れたアート・ギャラリーと考えてください。庭園の一端にそびえ、オーギュスト・ロダンの彫像『考える人』からインスピレーションを受けて、坂東優が制作した彫刻作品がある丘を始めとして、このほぼすべてものが、この10年ほどで建設、栽培、配置されたものです。ここでは、あらゆる石、花、木、小川、小鳥のさえずり、そして来園者が、毎日新たに創造される壮大で時代を超えた芸術作品の不可欠な要素なのです。

六花の森は、帯広近くにある六花亭という、人気の製菓店のかつての社長である小田豊さんが作りました。芸術の後援者であり、かつて野生の湿原や不毛の森林地帯だった場所に六花の森を建設しました。

小田氏は、クロアチアから十数軒ほどの巨大な田舎風の家を輸入し、アート・ギャラリーへと改築しました。そのほとんどは、坂本直行さん（1906-82）の作品の展示にあてられています。坂本直行さんは、ハマナスなど山野草が描かれた六花亭の象徴的な包装紙を手がけました。野外での数多くの芸術作品も六花の森の特色となっています。森の中や三番川沿いに点在する、青木三四郎の野生動物の彫刻などがあります。

ギャラリーの隣には六花亭の工場があります。訪問者は、庭に漂ってきた焼き立てのクッキーなどのお菓子の甘い香りによって、六花亭の工場の存在に気が付きます。カフェとショップもファクトリー内に併設されています。カフェの広大なガラスの壁からは、芝生や森、そして庭園が見渡せます。

六花の森は、4月下旬から11月上旬までの毎日、午前中から午後遅くまで開館しています。